



発行：北海道芽室高等学校進路指導部
 令和4年(2022年)4月26日(火)
 第3号
 文責：森 秀 夫



今年度の進路はどうなる??

各学年では進路希望調査が行われています。みなさんの希望が希望のままで終わらないように、『希望の実現』のために自ら一歩踏み出した進路活動を進めていきましょう。

3月21日の北海道新聞の記事には「十勝管内の高校生の就職内定率が1月末時点で98.9%と過去最高。全道平均を大幅に上回り、道内20地域で最も高い。求人倍率は2.90倍でハローワーク帯広では十勝経済の力の強さ、厳しいコロナ禍であっても若い世代を採用し育てようとする十勝の事業者の気概を感じる。」と分析していました。札幌や旭川は苦戦している情報を受けながらも順調に内定を重ねることができたことは、就職希望者の就職学習会や夏季休業中の就職セミナーの取り組みなどがよかったことに加えて、十勝管内の企業がコロナ禍でも求人していただけたことも要因です。

同じく北海道新聞の4月23日の記事には、「道内主要企業の38%が採用増。事業拡大へ積極姿勢。」とあります(右)。これがすぐに高校生の求人に繋がる確証はありませんが、今年度の十勝管内の求人状況は例年並みになると思われます。しかし、一方ではダイイチは求人減とのことですし(裏面記事)、昨今のガソリン価格高騰やロシアとウクライナの海外情勢などから、経済が急転することも考えられますので、いまは求人動向を注視しつつ、自分の足下をしっかりと固めて行く必要性を感じます。

先日、帯広市医師会看護学校の新校舎建設の記事が十勝毎日新聞に掲載されていましたが、現在、十勝管内の看護学校は帯広高等看護学院(定員45)社会事業協会帯広看護専門学校(定員30)です。新たに帯広大谷短期大学看護学科(定員40)と帯広市医師会看護専門学校(定員35)が加わることで十勝の看護学校の構図は大きく変わりそうです。その第一歩として帯広高等看護学院が指定校制度を導入することになりました。今春の入学試験で志願者が減少した同校が、少しでも早くいい生徒を確保したいという思いの表れでもあります。他校もこれに追随してくるのか?いまは分かりませんが今後の各校の対応や動きには目を離すことはできません。

また、北海道武蔵女子短期大学も新たに総合型選抜を導入することになりました。本校は指定校推薦枠(評定平均3.8以上)がありますが、短大のねらいとしては指定校推薦基準にわずかに達しない生徒の他学への流出を防ぎ、こちらも学生の早期に確保したいという姿が見えてきます。多くの大学、専門学校で入試制度を変更したりします。北海道教育大学では今年度の一般試験から「学びの履歴と志望理由書」の提出を求めていますし、選抜方法によって「学力の3要素」を昨年から評価に加えている学科もありますので選抜要項で確認が必要です。これからは高校での学習成績はもちろんですが、それ以外の取り組みも必要になってきました。あなたは高校3年間にしてきたこと...熱く語るができますか?

1 16期 2022年(春)
道内主要企業の2023年春の採用方針
 増やす 17
 22年専並み 34
 減らす 5

来春採用「増やす」38%
道内主要企業 事業拡大へ積極姿勢

北海道新聞の16期、道内主要企業を調査したところ、23年春の採用計画アンケートの結果をまとめた。回答した17社のうち4割近い35社が前年専並み程度を維持する予定と回答。新型コロナウイルスの影響を受けて、採用数を減らすという企業は前年と比べて減少し、採用数を増やすという企業は前年と比べて増加した。道内主要企業は、コロナ禍の影響を受けながらも、事業拡大を続ける方針を示している。採用計画は、前年と比べて増加した。道内主要企業は、コロナ禍の影響を受けながらも、事業拡大を続ける方針を示している。採用計画は、前年と比べて増加した。